

「地域で活躍する女性たち」議事要旨録

(開催要領)

- 1.開催日時: 令和2年 11 月 14 日(土)13:00~15:05
- 2.場 所: BSN新潟放送 本社ラジオスタジオ

3.登壇者 :

内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長 武井佐代里
株式会社農プロデュースリッツ代表取締役 新谷梨恵子
蒔絵伝統工芸士／林仏壇店六代目 佐藤裕美
尾畑酒造株式会社専務取締役／「真野鶴」五代目蔵元 尾畑留美子
株式会社ハピキラ FACTORY 代表取締役／
慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特任助教 正能茉優

(プログラム)

1. 開会挨拶及び施策説明

「今後の地方創生の方向性」について

武井 佐代里

2. 講演①「私の起業体験～好きを仕事にする方法～」 新谷梨恵子

講演②「家業を継ぎ、新たな道を」 佐藤裕美

講演③「サステイナブルな酒造りを目指して」 尾畑留美子

3. パネルディスカッション

ファシリテーター

正能茉優

パネリスト 新谷梨恵子

佐藤裕美

尾畑留美子

4. 閉会挨拶

* 敬称略・順不同

1. 開会挨拶及び施策説明

第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略では、「将来にわたって活力ある地域社会の実現」と「東京圏への一極集中の是正」を目指し、地方創生に取り組むこととしています。

女性活躍の推進の一環として、地方自治体によるSDGsの達成に向けた優れた取り組みを、「SDGs未来都市」として選定・支援するとともに、その中でも特に先導的な取り組みについて、財政的な支援を行っています。

また、地方へのUIJターンによる若者・女性等の起業や就業、地方において現在職に就いていない女性・高齢者等の掘り起し等を推進するため地方創生推進交付金による支援も行っています。

女性の活躍の形は様々ですが、仕事・地域・家庭で女性が輝くことができるということは、地域の魅力に大きく関わります。女性が活躍できる環境づくりのため、国として今後も取り組んでいきます。

2.①講演「私の起業体験～好きを仕事にする方法～」

私は東京の江戸川区の出身で、農家のお嫁さんになりたいと思っていましたが、主人は農家ではありませんでした。ならば自分が農業をしようと思い10年間農業法人で働きました。今から5年前、さつまいもをテーマに小千谷市を盛り上げたいという思いで起業しました。

さつまいもをテーマにやりたいことがどんどん広がり、地域の方とコラボすることで可能性が無限大になりました。会社はこの思いを発信する場所にしています。

これから起業したいと思っている方に伝えたいのは新しいことに挑戦するとき、多くの不安があると思いますが、必ず楽しい未来が待っている、そう信じて頑張してほしいと思います。

2.②講演「家業を継ぎ、新たな道を」

私は、新潟市で実家の仏壇店を継ぎ蒔絵師であり、イラストも描き、3児の母です。

今日に至るまで二つの大きな転機がありました。一つ目は膠原病の発症、二つ目は子育て中のLEXUS NEW TAKUMI PROJECTへの参加です。膠原病を発症したときに恩師からプレゼントされた240色の色鉛筆に励まされ、病気と闘いながらも1年後に個展を開くことができました。それをきっかけに様々な活動にチャレンジしました。LEXUS NEW TAKUMI PROJECTでは、思いを実現するためにいろいろな方の協力を仰ぎました。そして出来上がったのが、代表作「宙COCORO」です。

やりたいことに向き合い努力していると、応援してくれる人が出てくるし導いてくれる。それが継続につながり大きな成果につながっていく。やりたいことがあったらあきらめなくて挑戦していただきたいと思います。

2.③講演「サステナブルな酒造りを目指して」

私は、佐渡で真野鶴というお酒を造っている尾畑酒造の五代目です。一度は島を出ましたが、28歳

のときに父が倒れたのをきっかけに蔵に戻りました。仕事は当初難航しましたが、あるとき、周りは変えられないが自分は変えられると気付きました。自分が何か動けば次につながる、そんな手応えを感じ仕事も波に乗るようになりました。

海外輸出も品質は評価されるもうまくいきませんでした。しかし 2007 年、海外の鑑評会でゴールドメダルを受賞したときに、伝えるべきは品質の高さを超える個性であり、個性は生産地にあると分かりました。それから私たちの酒造りはどこにでもあるものではなく、佐渡だからこそできる取組を考えるようになりました。2014 年からは廃校を酒蔵に再生させた「学校蔵プロジェクト」という第二創業的な取り組みもスタートし、人の成長に寄与し、地域資源の循環につなげることで、サステイナブルなお酒造りをやっていくことを目指しています。

これから地域に移住したり、地域で起業を考えている女性たちには、あなただからできることが必ずあるはず。それを信じて挑戦していただきたいと思います。

3. パネルディスカッション

① 地域で事業を始める決断のきっかけ

新谷：

いろいろな活動に顔を出し、さつまいもで何かやりたいと言い続けていたら、いろいろな方が思いを応援してくれて5年前に起業しました。

佐藤：

両親が困難を乗り越え仕事をしている姿を見てきて、私が絶やしたくないという思いでした。

尾畑：

東京で仕事をしていた 28 歳の時、父が病に倒れ、死というものが身近になりました。人生最後に何をやりたいか？と自問した答えは、自分の蔵で自分のお酒をのむことでした。その瞬間、故郷に戻って酒造りしよう決めました。幸い、結婚することになった男性も一緒にお酒を造ろうと言ってくれました。

② 地域で活動することについて女性だからうまくいったこと

尾畑：

酒業界は女性が少ないため、一般的に名前を覚えてくださったり、メリットはあります。その一方、酒業界では男性か女性かよりも蔵元という立場が優先されます。男性か女性かよりも、パーソナリティが重要だと思います。これからは地方での女性の起業に加え、女性の新しい時代の家業承継や第二創業が増えていくことでより相乗効果が出るのではないのでしょうか。

佐藤：

子育て中のママたちとイベントをするときは、漆をやっていることは言わないのですが、知ってもらいとその方たちに漆を広めることができます。漆の仕事も楽しいし、イラストも楽しい。伝統工芸は年配の方と接することができますし、イラストは小さい子たちと接することができ、幅広く楽しんでいます。

新谷：

最初に小千谷弁を一生懸命覚えたことは大きかったと思います。「お茶飲んでいけや」と言われ、家に上がると漬物などが出てきて、食でつながっていったということもあります。農業の中で女性目線が役に立つ場面もありました。

③ 地域での活動で困っていることや課題

佐藤：

私はイベントや仕事の打ち合わせに子どもを連れて行きましたが、やはり家事は大変です。しかし「宙COCORO」を購入してくださった方が、SNS であげてくださると頑張ろうと思ったり、支えてくれている方々が喜んでくださると、やってよかったと思います。

尾畑：

子供に対して、もっと近くにいてあげたかったという反省ばかりです。ただ彼女たちには、島で酒造りをしながらも世界がマーケットになり、世界中にパートナーが出来るんだということを、しっかりと自分の代で作ってあげたいと思いやってきました。

新谷：

地域の方たちが一丸となって子どもを守る、ママさんたちが働きやすい環境を作るなど、ストレスを抱えないで働けることを形にしたいと思っています。

④ 地域で活動をしたいと思っている女性へのメッセージ

尾畑：

ワークもライフもリゾートも、すべてがかなうのが地方です。ぜひ地域性を深める活動やものづくりを通して、是非世界にも挑戦して欲しいと思います。

佐藤：

一人で抱え込まないで、得意なことを自分がするから、できないことはみんなに任せてやってもらうと、うまくいくような気がします。

新谷：

いろいろな人と協力してやることは大事なことだと思います。私は地方のほうが可能性は無限大だと思います。地方にはなにも「ない」、ではなく、こんなにも「ある」のだということを感じてもらいたいと思います。

4.閉会挨拶

以上